

# 乳幼児健診の効率化に関する研究

平山 宗宏 ほか(東京大学医学部保健学科)

## 3 歳児健診の問題点について

協力研究者 浦和市医師会  
阿部恒保 井原二郎  
手嶋力男

浦和市における3歳児健診の実情から問題点を整理すると以下のごとくであった。なお浦和市の状況は、従来行政あるいは医師会のとりくみ方が、全国レベルからみて中程度の地域であったと考えられ、とくに乳幼児健診に積極的にとりくむ姿勢のあった地域ではない。

(1) 年度別受診率、要精検率は表1のごとくであり、年度によるバラツキが大きい。49～52年度の要精検者のえらび出しは、保健婦が行っていたが、53年度には医師による直接の抽出としたところ、対象数は激減した。これは有所見者即要精密検診者ではないためであり、事後措置に関し能率のよい選出が必要であることを示している。

表1 U市にける年度別3歳児健診成績

	昭46年	47年	48年	49年	50年	51年	52年	53年	
対象数	4965	5096	5652	6038	6397	6850	7011	6705	
受診数	2615	2974	3203	3747	4087	4376	4575	3762	
受診率	52.7	50.3	56.7	62.1	63.9	63.9	65.3	56.1	
要精検	身体面	46	86	148	346	368	258	289	46
	精神面	1	155	44	47	15	37	70	54
会場数	12	15	15	15	15	16	17	17	
1会場当 受診数	218	198	214	250	272	292	269	221	
医師1人当 受診数	43	61	65	67	68	67	59		

(2) 保健指導を必要とした発達、習へきの例は表2のごとくであり、3歳時点の特徴をよく示していた。

(3) 3歳児健診時にツベルクリン反応を実施しているが、昭和52年度ツ反実施の4708例中自然陽転と考えられる50例があり。うち2例につき周囲に開放性結核患者を発見している。結核に対する警戒をゆるめることはできない。

(4) 健診票の形成・内容の改良や、会場当りの対象人数の改善などの1つをとっても、行政の流れのなかでは現場の希望をかなえるのはきわめて困難である。上部(国→県)からの「見直し指示」がぜひ欲しい。

(5) 教育委員会による就学・就園前児の教育相談が3歳を中心に行なわれているが、相談事業の対象人数も少なく、むしろテレビ番組の提供やがき、手紙による教育メモ・パンフレットの送付が主になっていて、かける費用の割に効果は疑問。埼玉県の場合には3歳児健診との交流はまったくない。厚生省・文部省の間での調整、連絡があって欲しい。

表2 53年度3歳児精神発達指導内訳

対象数	受診数	ことば			排泄のしつけ	習				癖			計	要二次指導	
		どもり	ハサリ行	おくれ		指しゃぶり	ベットの爪かみ	性器いじり	左きき	内気	神経質	乱暴			その他
6705	3762	26	16	124	93	116	30	10	22	38	11	58	33	577	54

## 市立健康管理センターによる

### 乳幼児健診の実施状況

戸田市立健康管理センター

飯島 昌夫

戸田市では市町村による地域住民の健康管理を、センターの機能として実施しているが、そのうち乳幼児に関する保健サービスの実状を報告する。

#### 1. 3歳児健診

市内の対象児のうち約1/3をセンターで、2/3を保健所で実施している。

平均所要時間は、保健所で正味28分、待時間30分計58分であり、センターでは正味51分、待時間40分計91分であったが、この正味の差は、センターでは子どもの遊びの観察と母親への集団指導を実施しているためである。

受診率は両者に差をみないが、有所見率は保健所

41.0%, センター66.7%とかなり高率になる。その内容をみると、治療を必要としない所見まで含めているからであり、またかかる軽症例の有所見率の変動は皮膚の所見をどうとるかにかかっているところが多い。

## 2. 1歳6月児健診

戸田市では1歳6月児健診の実施(53年4月)により、従来の乳幼児健診時期・3月, 6月, 12月, (24月・準備中), 3歳より, 3月, 9月, 1歳6月, 3歳に変更した。

1歳6月児健診には、センター所属の小児科医3, 保健婦5, 栄養士1, 心理相談員1, 歯科衛生士1, 嘱託の小児歯科医1によって実施。コンピューターによる記録保存が行われている。

これまでの実施数637のうち、現在問題となる身体上の有所見例は少ないが、精神行動発達面では次のごとく問題例が把握された。

行動発達の：運動・社会性	5 ( 8.9% )
おくれ 言語	16 ( 28.9 )
生活習慣	9 ( 16.1 )
問題行動	9 ( 16.1 )
養育態度	12 ( 21.4 )
その他	5 ( 8.9 )

## 3. 1歳6月児歯科健診

これまでに集計しえた636名についてみると、

むし歯あり	130 ( 20.4% )	1~2本 64 3~4 48 5~6 12 7~12 6
むし歯本数内訳→		

歯のよごれ631例中きれい	51 ( 8.1% )
ふつう	393 ( 62.3 )
きたない	187 ( 29.6 )

であり、食生活等とむし歯の関連をみると、それぞれのむし歯ありの率は以下の通り。

歯みがき	： している(173)していない(284)
家族構成	： 核家族 (193)複合家族 (265)
軟組織異常	： あり ( 83)なし (208)
乳酸飲料	： のむ (215)のまない (182)
炭酸飲料	： のむ (282)のまない (150)
果汁	： のむ (214)のまない (150)

母乳	： のむ (490)のまない (179)
間食	： 不規則 (171)規則 (231)
食器	： 哺乳びん(226)コップ (186)

## 1歳6月児健診における

### 選択健診法の検討

東大母子保健 石島央子  
 松戸市衛生部

伊藤みよ 木谷重代  
 出口佐代子 ほか

松戸市においては、対象幼児数の過多のために、新たなる1歳6月児健診を全員呼出して実施することが困難な状況にある。このため小児科医会の協力を得て、ハガキによるアンケート発送・回収という方式により、異常の疑いのある者を選び出して健診する選択健診法の検討を行っている。

53年5月から10月までの集計によれば	%
対象数3656→アンケート回収	2976(81.4)
スクリーニングで問題あり	669(22.5)
二次健診対象	577
その内訳	
身体面	180(31.2)
心理面	162(28.1)
身体・心理面	18( 3.1)
予防接種未	101(17.5)
要相談または希望	88(15.3)
スクリーニング不能	28( 4.9)

二次健診受診	373/577(64.6)
その結果問題あり	118/373(31.6)

であった。ここで問題となるのは、第1次スクリーニングに返信しない者であるので、8月の対象児中アンケート未返送者につき追跡調査を実施した。

返送群507, 未返送群53例の比較検討成績の概要は以下のごとくである。

出生順位：返送群は第1子が	47.9%
未返送群は	22.6%

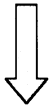
	返送群	未返送群
3月児健診受診率	97.2%	71.7%
9月児 " "	86.0%	58.5%
先股脱 " "	94.5%	54.7%
父親の年齢 平均	31.6才	33.9才

	返送群	未返送群
母親の年齢 平均	290 才	294 才
同居の祖父母あり	146 %	7.4 %
今までに比較的大きい 病気あり	134 %	25.9 %
今までに伝染病罹患	31.5 %	22.2 %
かかりつけの医師 あり	84.2 %	90.9 %
予防接種うけた率：ポリオ	83.0 %	88.9 %
ツ反応	77.1 %	59.3 %
B C G	74.0 %	55.6 %
麻 疹	15.6 %	14.8 %

現在の発達状況では

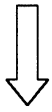
ことばの理解	93.3 %	85.2 %
なぐり書きをする	96.8 %	85.2 %
上手に歩く	97.4 %	88.9 %

などに多少差があり、歩行開始時期も未返送群におそい者がみられた。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



浦和市における3歳児健診の実情から問題点を整理すると以下のごとくであった。なお浦和市の状況は、従来行政あるいは医師会のとりくみ方が、全国レベルからみて中程度の地域であったと考えられ、とくに乳幼児健診に積極的にとりくむ姿勢のあった地域ではない。